

紋別市における景気動向調査報告書

＜平成 16 年度 第 1 四半期＞

紋別商工会議所

I. 調査要領

1. 調査時点及び調査対象期間

(1)調査時点 平成 16 年 7 月 1 日

(2)調査対象期間 平成 16 年 4 月～6 月期の実績および平成 16 年 7 月～9 月期の見通しについて調査した。

2. 調査対象

当所会員企業を対象に、商業＋食品業部会、水産業部会、機械工業部会、建設業部会、観光・サービス業＋諸業部会より各 30 社、計 150 社を抽出し郵送により調査した。

3. 回収状況

	対象企業数	回答企業数	回答率
商業＋食品業部会	30 社	18 社	60.0%
水産業部会	30 社	25 社	83.3%
機械工業部会	30 社	19 社	63.3%
建設業部会	30 社	21 社	70.0%
観光・サービス業＋諸業部会	30 社	21 社	70.0%
合計	150 社	104 件	69.3%

注) 本調査結果の中で、D・I 値とある記号は、デフュージョン・インデックス（景気動向指数）で、好転企業割合から悪化企業割合を差し引いた値を示す。

II. 概況

1. 全体の動き

本年度から始めた紋別市景気動向調査第 1 四半期（4～6 月）における業況は、前年同期と比較し「好転・やや好転企業」13.5%、「悪化・やや悪化企業」58.7%、「好転」から「悪化」を差し引いた D・I 値は▲45.2 となっている。

今回の業況を部会別に見ると、商業・食品業部会 D・I 値▲72.2、水産業部会 D・I 値▲16.0、機械工業部会 D・I 値▲42.1、建設業部会 D・I 値▲42.8、観光サービス業・諸業部会 D・I 値▲61.9 となっており、商業・食品業部会の数値が際だって高く、厳しい状況にあることがうかがえる。

また、来期の見通しを全業種で見ると「好転・やや好転企業」9.6%、「悪化・やや悪化企業」56.7%、D・I 値▲47.1 となり、今期よりも厳しい慎重な見通しとなっている。

2. 業況判断

		今回調査	前回調査	前年同期
業況判断 D・I	今期実績	▲45.2	—	—
	来期見通し	▲47.2	—	—

第1四半期（4～6月）における業況判断 D・I は、全体で▲45.2となっている。業種別にみると、商業・食品業部会で▲72.2、観光サービス業・諸業部会で▲61.9となり、非常に厳しい状況がうかがえるが、基幹産業である水産業部会がマイナスながらも▲16.0と比較的安定している。

来期については、全体で今期に比べ2.0ポイント低下する見通しとなっているが、水産業では4ポイント上昇する見通しとなっている。

3. 売上状況

		今回調査	前回調査	前年同期
売上 D・I	今期実績	▲51.0	—	—
	来期見通し	▲53.8	—	—

今期の売上 D・I は、全体で▲51.0となっている。業種別にみると、商業・食品業部会で▲77.8、観光サービス業・諸業部会で▲71.4となり、業況判断 D・I と並び非常に厳しい状況がうかがえる。

来期については、全体で今期に比べ2.8ポイント低下する見通しとなっているなか、特に機械工業が26.2ポイント低下するという見通しとなっている。

4. 資金繰り見通し

		今回調査	前回調査	前年同期
資金繰り D・I	今期実績	▲39.4	—	—
	来期見通し	▲38.5	—	—

今期の資金繰り D・I は、全体で▲39.4となっている。業種別にみると、商業・食品業で▲55.6、観光サービス業・諸業で▲57.2と厳しさがうかがえるが、水産業は▲4.0と堅調である。

来期については全体で今期に比べて0.9ポイント好転する見通しとなっている。

5. 経営上の問題点（複数回答あり）

	今回調査		前回調査	
第1位	売上の不振	63.5ポイント	—	—
第2位	得意先（客足）減少	46.2ポイント	—	—
第3位	同業者間の競争	38.5ポイント	—	—

今期の「経営上の問題点」に関する回答では、販売（金額・客数）の不振と、それによる競争の激化を訴える声が多数を占めた。

6. 部会別 D・I について

		全 体	商 業 食 品 業	水 産 業	機 械 工 業	建 設 業	観 光 ナ ビ ス・ 諸 業
業況判断 D・I	今期実績	▲45.2	▲72.2	▲16.0	▲42.1	▲42.8	▲61.9
	来期見通し	▲47.1	▲66.7	▲12.0	▲57.9	▲47.6	▲61.9
売上 D・I	今期実績	▲51.0	▲77.8	▲20.0	▲47.4	▲47.4	▲71.4
	来期見通し	▲53.8	▲66.6	▲20.0	▲73.6	▲52.3	▲66.6
在庫 D・I	今期実績	7.0	16.7	0.0	—	—	—
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
採算 D・I	今期実績	▲47.2	▲50.0	▲36.0	▲42.1	▲47.6	▲61.9
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
資金繰り D・I	今期実績	▲39.4	▲55.6	▲4.0	▲47.3	▲42.8	▲57.2
	来期見通し	▲38.5	▲66.6	8.0	▲36.9	▲42.9	▲66.7

【 部 会 別 の 動 き 】

- 1) 商業・食品業部会
- | | |
|-------|---|
| 売上高 | 前年比で「増加企業」0%、「減少企業」77.8%、D・I値77.8と、非常に厳しい状況となっている。 |
| 採算 | 前年比で「増加企業」16.7%、「悪化企業」66.7%、D・I値50.0となっている。 |
| 来期見通し | 業況D・I値△66.7、売上高D・I値△66.6、資金繰りD・I値△66.6となっており、売上高D・I値は今期よりも僅かに改善されるが、以前厳しい見通しとなっている。 |
- 2) 水産部会
- | | |
|-------|---|
| 売上高 | 前期比で「増加企業」28.0%、「減少企業」48.0%、D・I値△20.0と、他の部会と比較するとマイナスながらも小幅となっている。 |
| 採算 | 前年比で「好転企業」8.0%、「悪化企業」44.0%、D・I値△36.0と、売上がなかなか採算の向上につながらない状況がうかがえる。 |
| 来期見通し | 業況D・I値△12.0、売上高D・I値△20.0、資金繰りD・I値8.0となっており、当部会の資金繰り見通しが今回調査で唯一のプラスとなっている。 |
- 3) 機械工業部会
- | | |
|-------|--|
| 売上高 | 前期比で「増加企業」15.8%、「減少企業」63.2%、D・I値△47.4と、厳しい状況となっている。 |
| 採算 | 前期比で「好転企業」10.5%、「悪化企業」52.6%、D・I値△42.1と、売上の減少と並び採算性の悪化が暗い影をおとしている。 |
| 来期見通し | 業況D・I値△57.9、売上高D・I値△73.6、資金繰りD・I値△36.9となっており、各値とも今期より厳しいとの見通しになっている。 |

4) 建設業部会	完成工事高	前期比で「増加企業」19.0%、「減少企業」66.7%、D・I値△47.7と、厳しい状況となっている。
	採算	前期比で「好転企業」14.3%、「悪化企業」61.9%、D・I値△47.6と、完成工事高と比例し回復が見られない。
	来期見通し	業況D・I値△47.6、売上高D・I値△52.3、資金繰りD・I値△42.9となっており、各値とも今期とほぼ同じく、厳しいとの見通しになっている。
5) 観光サービス業・諸業部会	売上高	前期比で「増加企業」4.8%、「減少企業」76.2%、D・I値71.4%と、商業・食品業部会と並んで非常に厳しい状況となっている。
	採算	前期比で「好転企業」9.5%、「悪化企業」71.4%、D・I値△61.9と、非常に厳しい状況となっている。
	来期見通し	業況D・I値△61.9、売上高D・I値△66.6、資金繰りD・I値△66.7となっており、各値とも依然回復の気配は見られず、厳しい見通しになっている。

7. 部会別経営上の問題点

	1位	2位	3位
商業・食品業	売上の不振	同業者間の競争	得意先（顧客）減少
水産業	人件費増	諸経費増	売上の不振
機械工業	売上の不振	得意先（顧客）減少	同業者間の競争
建設業	売上の不振	諸経費増	同業者間の競争
観光サービス・諸業	売上の不振	得意先（顧客）減少	諸経費増
合計	売上の不振	得意先（顧客）減少	同業者間の競争

Ⅲ. 業界の問題点等

■商業、食品業部会

- ・バイパス沿いの大型店への対応
- ・大型量販店の進出による客数の減少、中心商店街の客離れが気になり。特に土・日の減少は著しい。役所、金融機関が休業のためと思われる。
- ・本州、都市圏はどうであれ、北海道はもとより当市にあっては、産業の伸び悩みの中、特に建設業が大きく落ち込んでおり、街の消費力が下がっている。更に道内ビッグチェーン店の進出が目立っており、今後の見通しは立たない。
- ・デジタル化、少子化、公共事業の衰退等、今後も困難なときが続くものと思う。このときこそ、我々は真下を見据え、総論ではなく各論を論議し、今を見据えなければダメ。
- ・大手スーパーの進出

■水産業部会

- ・原料資源の水揚げ減少における不足感。特にスケソウ原魚の海外輸出向けが増加となり、自社工場加工向け原料の不足感が否めない。
- ・何かと厳しいことはどこの業種、業界も同じだが、黙っては何も進まない。他力本願では、自分も景気も良くなると思いません。リスクは勿論あるが、挑戦、行動、実践してみる気持ちが必要だ。

- ・原料（甲殻類）の価格変動が昨年に比べて激しいため、価格設定が難しい。
- ・紋別市の第一次産業は水産業です。オホーツク海に於ける水揚げが仕事に一番影響します。山、川、畑のバランスのとれた経営、魚介類が気持ちよく成長できる環境の整備が大切です。

■機械・工業部会

- ・雪害による帆立漁獲高減少は、今年水産業に大きな影響を及ぼすと思われるので、資金対策・帆立以外の海底資源、陸上での養殖、海外からの原魚確保等、早急に対策して欲しい。あわせて、公共事業の対策も。
- ・農家の戸数減少、大型機械の取り扱いがなくなった。新規就農対策を国が重点を置いて、独身の後継者が多いので、市がヘルパー制度の取り入れを農家の目線に立って取り組む必要がある。酪農施設機械は好調。

■建設業部会

- ・同業者間の競争激化と、大手参入による値引き。施工金額の低価格。
- ・官民共に事業の縮小により、受注高の極端な競争及び減少による不況。
- ・売掛金回収に不安がある。

■観光・サービス業部会、諸業部会

- ・商店街活性化のため、鳴り物入りで開店した海紋市場開店から1年が経過しましたが、商店街活性化には何のプラスもない結果です。
- ・新しい客がなかなか増えない
- ・人口減とマイカーの増加による客減りが目立っています。飲食店側にもっと足を運ぶ人が多くなるように願いたいものです。
- ・過疎化

IV. トピックス～道都大学の撤退による影響

- ・若干の影響
- ・さして問題なし
- ・顧客層が中高年、特に女性客が多いので直接の影響は少ないが、間接的にマイナスになると思う
- ・影響大
- ・影響は大いにある。町の中にいた人材がいなくなることは、街全体が沈滞していく。消費も困るが、アルバイト等の労働力も無くなる。
- ・多少なりとも人口減による購買減少により、業績悪化につながると思われる。
- ・特に影響なし
- ・影響有り
- ・卒業アルバムの制作など、大学との関わりが無くなることにより売上が減少する。
- ・直接的な影響は考えられない。しかし間接的には影響がある。
- ・大学撤退の影響は紋別の経済に大きく影響すると思う。アパート・下宿などを営んでいる方や、飲食店の方には大打撃でしょうから、その影響が波及してくると思う。
- ・特に無いと思われる。それよりも研修生（中国人？）などに仕事を奪われている市民が所得を回復しない限り、市内の景気は回復しない。
- ・影響有り。売上の減少。
- ・学生もお客様。教授の方々もお客様。
- ・当社には影響ありませんが、街全体としてみますと大変な影響を受けることになると思います。
- ・小売り部門の減収
- ・影響なし。少子化傾向といわれ始めてからかなりの時間が経っています。この様な結果になることは明白であったにもかかわらず、市として多額な助成金を注ぎ込んだのは残念に思う。

全て北広島に移るとか。したたかな大学です。

- ・直接の影響は無いと思うが、撤退後の紋別の経済が悪化すれば、少なからず影響は出てくると思います。
- ・直接にはありませんが、若者の流出、全治的な人口減、高齢化は間接的に影響を及ぼす。
- ・当社は道都大学の施設の新規工事、維持管理をさせて頂いた経緯もあり、撤退の影響は少なからずあると思います。
- ・人口減による消費の減少とアパート等の建築、改造の減少及び付帯する工事の減少
- ・すぐに影響はないが、お客様に関係のある方がおられるので、いずれ影響は出てくる。
- ・直接はないが、結果として市の予算の点から言えば影響はかなりあるだろう。
- ・お客様の減少で多少影響がある。最悪の本町通りになりました。
- ・客足、人材に影響が出ると考えられる。
- ・大学があるときより全体の売上 10%減
- ・かなり厳しくなると思います。
- ・勿論あります。若い方が少なくなりますし、家庭のある方も少なくなっていく訳ですから。
- ・大学関係の利用が減ることによって影響は大きいと予想されます。
- ・全くありません。撤退は非常に良いことだと思います。存在していても売上・同校からの労働力など、悪影響のみです。